



8/22

持続可能な地域医療と新型コロナウイルス感染症の対策を探る 第15回村上・岩船地域の医療を考えるフォーラム（市民ふれあいセンター）



▲ウイルスは手洗いでほとんど洗い流せる（松本氏）



▲「はぐ」の活動が始まります

市および岩船郡における持続可能な地域医療実現に向けて年に一度開催している「村上・岩船地域の医療を考えるフォーラム」。今年は、来場者に検温および名簿記載の協力をいただき、客席もソーシャルディスタンスを取りながら、新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと講じて行われました。

講演は「新潟県地域医療構想と新型コロナウイルス感染症対策」と題して、感染症の対策やリスク、県の検査体制などについて松本晴樹氏（県福祉保健部長）から、「村上・関川・粟島健康コホート調査の成果2020」と題して、圏域における生活習慣や健康状態の推移や、人口学によるコーヒーと緑茶の作用などについて中村和利氏（新潟大学大学院教授）から行われました。

また、医療関係者を中心に村上地域の医療をサポートしていく「むらかみ地域医療サポートセンター“はぐ”」設立の報告があり、今後、地域と病院との交流活動や地域医療への理解を高める普及活動や人材育成活動を進めていくことを発表しました。

8/23

まち協の拠点整備スタート！ 草刈り作業（山北地区まちづくり協議会拠点施設）

山北地区まちづくり協議会では、今年4月から旧やまゆり学童保育所（旧府屋保育園）を市から借りて、活動の拠点としています。

これまで、新型コロナウイルス感染症の影響で思うように会議や事業ができず、なかなか施設の活用が進みませんでした。が、「まずはできることからやってみよう！」ということで、庭の草刈り作業を実施。

拠点施設の整備を担当する地域リーダーズ部会のメンバー10人が参加し、約1時間、草刈り作業に汗を流しました。

今後、地域の人たちも活用できる施設を目指して整備を進めていくそうです。



▲草刈り作業の様子

8/30

日ごろから災害への備えを 地震・津波発生時の防災訓練を実施（海老江集落）



▲津波一時避難場所への避難訓練

市内一斉の防災訓練の日、荒川地区では、それぞれの集落ごとに地震災害を想定した訓練が行われました。

海岸に最も近い海老江集落では、大津波を想定した避難訓練に約40人が参加。市の避難指示発令後に、津波一時避難場所となっている日本海東北自動車道の車道脇にある高台まで自主防災組織の先導により徒歩で避難を行いました。

参加者は、緊張感を持って避難訓練に臨み、有事の際の初動行動について互いに確認をし合っている姿が印象的でした。

9/1 気軽に立ち寄れる“第3の居場所”づくり ふくちゃcaféがオープン（坂町地内）

ふくちゃcaféは、誰でも立ち寄れる通常営業のほか、子ども向けに放課後の自習室として開放するカフェとしてオープンしました。また、発達が気になる子どもとその家族を支える活動を展開する「ふくちゃ部」の活動拠点として、発達についての相談窓口など、家庭でも職場（学校）でもない“第3の居場所”となることを目指します。

“ごちピン”というシステムを導入し、大人のカフェ利用者が代金に150円を上乘せして支払うと、その分が放課後に訪れた子どもの軽食代として活用されます。

営業は、毎週月～水曜日と第2・第4土曜日の午前11時～午後2時、午後3時30分～6時30分です。



▲子どもたちの放課後の自習室としても開放

9/2 響き渡る伝統芸能 大須戸能「謡」体験会（大須戸集落）



▲腹から声を出して謡いました

新潟県の無形文化財に指定されている大須戸能の「謡」体験会が行われました。参加者は配られた謡本を手に、謡手が声を揃えて謡う番組を目で追いながら、合わせて腹から声を出して謡っていました。

役者、囃子方、地謡の全員が謡手となり、15分以上ノンストップで続く番組は迫力満点。本番は1時間以上演じられるのだそう。

村上地域から参加した男性は、「日本の芸に触れられて面白かった。腹から出される声や、鼓に合わせた謡手の謡い出しも揃っていて、感動した」と話していました。

10月2日、11月2日、12月2日も午後7時から開催されます。次はどんな番組が謡われるのか楽しみです。

9/3 パインバレー湿原で薬膳料理体験 いわふね緑の会研修会（松沢集落）

「いわふね緑の会」会員12人が参加して開催された研修会で「健康寿命延伸のための里山の活用と薬膳料理」について学びました。

越後薬膳ツーリズム代表の佐藤巧氏から「いつまでも若々しく生きるため」と題し講義を受けた後、松沢集落で整備しているパインバレー湿原へ会場を移し、湿原に生えている薬木に触れてみたり、摘んでみたりしました。

最後に薬膳料理もいただき、心身ともにリフレッシュできたという参加者からは「連続講座で開催をお願いしたい」との声も聞かれるほど好評でした。



▲集落の皆さんが整備している堤「パインバレー」で研修を受ける参加者

9/12 2,000本の竹灯籠で描く幽玄の世界へ 竹あかり たてこしの夕べ（小川小学校）



▲竹灯籠と鳴り響く朝日三面川太鼓

小川小学校で「竹あかりたてこしの夕べ」が開催されました。例年開催している「田んぼアート」で描く図柄を、竹灯籠で再現する催しですが、今年は田んぼアートを開催することができなかつたため、初めてその図柄がお目見えとなりました。

丁寧に並べられた約2,000本の竹灯籠へ火を灯すと、会場は一気にロマンティックなムードに。

今年は、小川小学校児童による朝日三面川太鼓も演奏され、目と耳で楽しめる幽玄の世界となりました。